

武蔵野市第六期長期計画・調整計画策定委員会（第17回）

■日時 令和5年8月7日（月） 午後7時～午後9時15分

■場所 市役所西棟4階 412会議室

出席委員：渡邊委員長、岡部副委員長、木下委員、久留委員、古賀委員、鈴木委員、
中村委員、箕輪委員、吉田委員、伊藤委員、恩田委員

欠席委員：なし

1. 開 会

委員長が開会を宣言し、企画調整課長が委員の出席状況と配布資料について説明した。

2. 議 事

（1）計画案について

企画調整課長が、教育部長の説明に先立ち、資料1-1「第六期長期計画・調整計画案 Ver.3.0（修正履歴あり）」のうち、子ども・教育分野の基本施策5の（4）「学校改築の着実な推進と安全・安心かつ適切な施設環境の確保」の変更部分について説明した。

続いて、教育部長が、学校改築に関する記載変更の概要を説明し、学校施設担当課長が、その詳細について説明した。

【委員長】 本日の資料1-1「Ver.3.0（修正履歴あり）」は、第16回委員会資料1-1（Ver.2.0）から踏み込んで、二中と六中の統合及び六中校跡地への二小の移転と、3校同時に統合と移転をする形での具体的な提案をしている。この学校改築における事務局あるいは担当部署からの提案について、我々としてどのようなことを書き込んでいくべきかの議論を行いたい。

【A委員】 効率的に学校建てかえを進める工夫がなされたご提案だと思って拝聴した。実際に影響を受ける二中、六中に通う生徒とその保護者の皆さんの今の受けとめ方について教えてほしい。まだ何も公表していないというのであれば、皆さんのコンセンサスは得られそうなのか、こういう問題が出そうだという推察を踏まえて、教えてほしい。

【教育企画課長】 現在は、関係校の開かれた学校づくり協議会の方にお話をしたところ

でとどまっている。そういう考えがあるのかというご意見、通学のこと、規模のこと等、様々なご意見をいただいた。

【B委員】 武蔵野市学校施設整備基本計画に基づいて既に着手されている事案で、仮設校舎での授業に、工事の音などがどう影響しているか、あるいは生徒の反応について、データはあるか。

今回の建てかえの計画に伴い、区割りが変わることで、通学経路、時間が変わるなどの影響を受ける子どもたちがどれぐらいいるのか、概数でいいので教えてほしい。

今回の建てかえで、小学校6年間のうち何年間、中学校3年間のうちの何年間、影響を受けることになるのか。コロナの期間中は学校へ行けなかった子どもたちがいた。そのような影響の度合いになるのか。

【学校施設担当課長】 現在建てかえを進めている一中と五中の仮設校舎は、リース会社が違うので、若干しつらえは違うが、基本的に同様の形で工事している。

一中は、3階が揺れるとのご指摘を受け、我々が見に行った。実際に座って、その周りを人が歩くなどして調査したところ、床が鉄筋コンクリート造ではなく木製であることにより生じるたわみで揺れていた。地震のような揺れではなかった。仮設校舎の1年点検時にも詳細に原因究明する。騒音対策として、解体工事を行う側の窓に二重サッシを設けた。音については特に大きな問題はなかったと伺っている。

五中は、音、揺れともに特に問題ないというお話を学校からも保護者からもいただいている。若干名の生徒から、揺れが気になるということがあったが、一中と同様、人が歩いたときに床がたわむ関係で、座っていると揺れを感じるのではないかと考えている。

暑さ寒さについては、断熱材と空調機を入れたので、改築担当としては特段問題はないと考えているが、やはり空調を入れる前の時間帯においては暑い寒いを感じるというお話をいただいている。空調を入れる前の時間帯においては既存の鉄筋コンクリート造の校舎も同様であり、仮設校舎だからというわけではないことを学校側から確認している。また、空調を入れれば問題ないという話も学校から確認している。

改築には、計画、設計に約3年かけ、解体工事、建設工事を含めて4～5年を必要とする。体育館を残す方式だと、一遍に壊す通常の形よりも、半年から1年ほど工事期間が長くなると考えている。設計中は子どもたちに影響はないが、工事に入ると、中学生は丸々3年仮設校舎での生活になる可能性があり、小学生も、1年から1年半は既存の校舎で生

活できるものの、それ以外の期間は仮設校舎での生活になる可能性がある。

【教育企画課長】 通学の影響を受ける人数について。六中学区の生徒は現在約 240 名で、今後の生徒数も考えると、六中の全生徒 200～300 人が二中に通うことになり、距離の大小はあるが影響する。

【B委員】 子どもたちへの影響は最小限にしたほうがいい。揺れや音の問題は特にないとしても、毎日のこととなると相当なストレスになる。

【委員長】 B委員は、影響の少なさという意味で、今回の提案を評価しているということか。

【B委員】 そう解釈していただいて結構である。

【委員長】 この移転計画自体は非常によくできていると思った。ただし、これは移転面の話にすぎない。何のために今回、統合と移転という提案が出てきたのかを改めて確認したい。今回の最大の目的は何か。

【教育部長】 境南小以外の二小、二中、六中の改築にあたり、様々な課題が出ている。その課題解消である。

【委員長】 建築上の問題のために、このような大規模な移転と統合を行いたいということだと、教育の効果や学級規模は考慮せずということになってしまうが、それで大丈夫か。

【教育部長】 ハード面をメインに考えている。

【委員長】 今、六中はやや規模が小さくて、学級数が少ない。生徒数が少ないほうが教員の目が行き届きやすいし、校長の管理がしやすい。また、初等教育では学級規模を小さくしたいというニーズがあるが、中等教育にもそれは当てはまるのか。あわせて、移転は今後の武蔵野市における公立学校で、適切かつ質の高い教育を継続的に提供することに貢献するのか。移転期間における児童生徒に対する一時的な負担も十分考えなければいけないが、学校は何十年も残る。その教育効果について、指導課長はどうお考えか。これまでの検討や経験からお考えをお聞かせいただきたい。

【指導課長】 大規模校になれば、それだけ教育の目が行き届かなくなる。私は、24 学級の中学校に教員として配置された。1 学年 8 クラスの子どもたちを 1 人で授業することは不可能なので、例えば国語科は、複数の教員で授業を分担した。そのため、1 つの学年で、知らない顔の、名前もわからない子どもがいた。また、校長職として、1 学年 6 学級、全 18 学級の中学校に赴任したときは、コロナの期間中でもあり、子どもたちの顔がマス

クで半分見えないということもあって、生徒の顔と名前を完全に覚え切ったと胸を張って言える状態にはなかった。そういう大規模校のデメリットがある一方で、1学年8学級の学校に初任者で配置されたときは、1学年に複数の国語科教諭がいるので、例えば授業の実践についての助言を受けることができた。今、初任者の育成が大変というニュースを見るが、授業実践のブラッシュアップができたというメリットもあった。

【委員長】 二中、六中、それぞれ12クラスと7クラスだ。大体20クラスというのは、一般的に大規模校に入るのか。その場合、副校長、教員の加配は可能なのか。

部活動等の持続性の面で、学校の規模が大きくなることによるメリットは何か。

武蔵野市内の中学校は全て、自転車通学を禁止している。どういう区割りになるかわからないが境南町の一番端から新統合校まで、徒歩で30～40分はかかる。そのことが持つ教育的な意味にはどのようなものがあるか。また、雨の日、風の日にかかわらず毎日の通学に、市としてできることはあるのか。

【指導課長】 今、完全にニュートラルな状態で、様々な選択肢を検討している段階だ。教育的なメリット、デメリットの検証は、これからもすべきだと考えている。

通学に徒歩で30分から40分という子どもは出てくる。また、現在既に2つの部活動で二中と六中が合同で練習している。逆に、そうしないと部活動として成立しないという一面もある。通学の問題と部活動の問題を並列にするわけにはいかないが、スケールメリットと課題はある。

教育的な効果としては、私が24学級の学校に配置されたときは、武蔵野市のような都心部ではなかったので、片道1時間近くかけて歩いてくる生徒もいた。やむなくという状態だったが、結果的に体力はかなりあった。毎年の体力テストでは、学区域の狭い都心部の中学校とは相当な差異があり、歩くことの影響は大きい。ただ、武蔵野市の場合、歩いて登校することが適切なのか、自転車やバスを検討することが適切なのかは、各段階でご意見をいただきながら検討すべき事項だと思っている。

20クラスは、一般的に言えば大規模校である。文部科学省は、適正な規模を12～18学級としている。

【C委員】 1時間歩く子たちの体力ということは結果論である。通学は原則徒歩で、自転車、バスの利用は認めないとのことだが、合理的な配慮はどうなっているのか。

【指導課長】 遠いところから通学する子がいた学校は25年前の話である。当時は合理的配慮という考え方は十分になされていなかったと思われる。現在、その学校は、私が伝

え聞く限りでは、自転車通学を認めている。また、バス路線が非常に厳しい地区であるが、バスを使う子もいる。

【D委員】 六中の改築は2024年度に基本構想、二中が2025年度に基本構想とのことだが、いつまでに決めないといけないのか。

先生の採用が難しい中で、統合した場合、先生の絶対数は減るのか、増えるのか。

【学校施設担当課長】 統合の要否は、有識者の方に入っていていただいて、来年1年間かけて教育的価値などを議論する。令和6年度中には方向を固めたい。

【指導課長】 教員数は、東京都教育委員会が、その年度の児童生徒数で決める。なお、20学級でも副校長は1人で、何らかの支援が必要になると思われる。

【委員長】 統合するかどうかの方針自体を来年度、教育学等の有識者と地域住民の方々と議論して進める場合、私は具体的な学校名を出したほうがいいと考えるが、学校名を出すのは勇気の要ることである。所管としても、具体的な名前を出して進める必要があるということで、この記載の提案をしたと理解していいのか。

【教育部長】 委員長おっしゃるとおりである。

【副委員長】 規模が小さいことで、よい教育ができる面はあるが、高校に入る前は、集団やリーダーシップ、人をまとめていく教育が極めて大事である。そう考えると、私は三中であっても規模は小さいと思う。

建てかえというハードウェアの合理性、仮設校舎の合理性も大事だが、教育のスペンは長い。中学校を統合することで、教育上、どんなメリットが得られるのか。OB、OGは、大きいところを卒業したほうがいいのか。私は、大きい集団のほうが、武蔵野市の中学生にとって、いい経験ができると思う。

【指導課長】 確かに大規模校で、最初のうちは人前に立つのを不安そうにしていた子がみるみるリーダーとして育っていく場面を見たことがある。ただ、小規模校と違って、スポットライトが当たる人間に限られてしまう。それがいいことなのかどうかも考えなければいけない。何百人に対するリーダーシップと、十数人の協働的なリーダーシップと、どちらが武蔵野市が求めるリーダー像か。双方にメリット、デメリットがある。

【E委員】 この文章の中に二中と六中、二小の名前を入れることが、検討をするうえで重要であるというのは理解したが、市民が読んで、統合ありきとってしまうことを心配している。議論するということが伝わる書き方を考えたい。

お子さんたちにとって、中学校を丸々3年、仮設で過ごすことがどういうことなのかを考える必要がある。子どもが仮設で過ごすことによる部分は、先生たちから見えないところにもある。新しい校舎に改築すること、仮設で過ごすこと、その両方が中学生、小学生の将来にとってどうなのかを考えていただきたい。

建物をどうするかという話が先に来ているが、本来は、教育的なところから始まって、例えば大きい集団で育つという経験が武蔵野市の子どもにとってどう大事なのかということではないか。子どもは100人いたら100人違う。大きい集団の中で育つほうがいい人もいれば、小さい集団のほうがいい人もいる。支援配慮の必要なお子さんもいれば、学校に通いづらいお子さんもいる。全ての子どもにとって教育的にいい答えを見つけるのは難しいことではあるが、最適を考えて、統合することにどういうメリットがあるのか、それに加え、統合して、そこで今までどおりの教育をするのではなく、武蔵野市としてどういう教育を考えるかを検討していただきたい。

通学時間に要する時間が変わるということは、お子さんの通う距離だけでなく、ご家族がその分、早く送り出さなければいけないなど、いろいろなことが関わる。大人だけの議論にならずに、小中学生たちがどう考えるかに耳を傾けていただきたい。

【教育部長】 おっしゃるとおり、改築期間中のことはもちろん、改築後のほうが期間は長い。教育委員会としては、ハード面だけでなく、子どもたちにとってよりよい教育環境がどうなのか、教育的価値をメインに置く。大規模校についても、一般的なメリット、デメリットはある程度わかってはいるが、武蔵野市の文化、武蔵野市の教育にとってどうなのか、学識経験者や校長先生や地域の関係者に様々ご意見をいただいて判断したい。

【E委員】 二小の跡地利用については未定とのことだが、子どもを中心とした市民への活用で何か考えていることはあるか。

【教育部長】 二小の跡地については、今はゼロベースで、特に何も考えていない。

【F委員】 小学1年生の30分と中学3年生の30分は、体力的に全然違う。また、天候の厳しい状況もあることを十分に配慮しなければいけない。

仮校舎を使用しない建てかえのメリットを考えると、例えば二中を先に建てかえて二中のあいたところを壊すのではなくて、六中建てかえの間、六中の生徒が勉強する場所として使い、小学校は別の案でいくということを考えてはどうか。そうすれば、統合するとかしないとかいう問題はクリアできるし、既存の校舎を使うこともできる。いろいろな案を募集してはどうか。

【学校施設担当課長】 今回お示ししたものは、あくまで一つの案だ。いろいろシミュレーションして、統合も含めて何がいいのか、しっかり議論したい。

【副委員長】 仮に二中と六中が統合すると、生徒数 401 と 246 で、650 人程度の規模になる。これは武蔵野市の中では一番大きい学校になるが、都内ではどうか。

【指導課長】 練馬区は現在、18 学級以上の規模の中学校は全 34 校中 3 校と聞いている。都内のほかの市区も、おおむね 12～18 学級を目途に調整しているはずである。

【副委員長】 武蔵野市は 9 クラス以下が 4 校あり、中学校はかなり小規模である。小学校は地域と通学距離で決めるから、他自治体と大体一緒という理解でいいのか。

【指導課長】 9 学級程度の中学校は都内にたくさんあるので、一概には言えないが、武蔵野市はそれを生かして丁寧な個別の教育を進めているというのが、市外で教員をしているときの個人的な印象である。

【副委員長】 小規模であっても、それなりに特色ある教育もできるということか。

【指導課長】 おっしゃるとおりである。

【委員長】 人口推計では、15 歳以下の人口は、若干の増減をしつつ、あまり変わらない。ただ、統合して桜野小をつくったところ、大規模開発という複合的要因があって、仮設校舎をつくらざるを得ない状況に追い込まれた。武蔵境の南のほうは農地が多い。万が一、開発等が進んで、学校のキャパシティがオーバーしてしまわないかという問題を、統合した場合と統合しないで建てかえた場合とについて、どの程度検討したのか。

【学校施設担当課長】 学校の改築にあたり、人口推計のピークに合わせたクラス数を想定している。人口推計は、開発がまだ見込まれていない部分については盛り込まれないので、少し余裕を持たせる必要がある。各校ごとに精査して、教室数を決める。

【委員長】 統合するにしても、しないにしても、改築の計画を具体的に立てる際には、ある程度マージンをとりながらクラス数を決めるということか。

【学校施設担当課長】 マージンをとり過ぎて子どもが増えないと、無駄に大きくつくったということになる。各校ごとに人口推計をにらみながら規模を決定する。

【委員長】 無駄にしない使い方さえ見つけられればいいと個人的には思っているが、面積の問題もある。無理に詰め込むと、別のハレーションも起きる。適切に検討するということについては承知した。

【G委員】 教育は、メリット、デメリット、どちらもある。教育を受ける側にはどんな状況にも適応する能力が必要である。皆さんは、ハード先行で物を考えることを問題視しているが、ハード的に有利なことは、ある意味で保障付き、約束されたメリットである。わざわざそれを捨ててまでほかのプランを考える必要はないというのが私のスタンスである。唯一解をソフトの側だけから求めるのは難しい。

【委員長】 ハードに詳しいG委員の目から見て、今回の提案をどのように感じたか。

【G委員】 非常に妥当な検討だと思った。理にかなっており、メリットが多い。

仮設校舎の期間は短いほどいい。つまり、仮設校舎で暮らすという状況をつくらないのが、すぐれた案である。代替案もあるかもしれないが、私は今回の提案を評価している。

【副委員長】 「データから見た武蔵野市」を見ると、五中は6クラス 225人で膨大な敷地を持っている。統合する学校は20クラスぐらいで600人以上になるが、面積は増えるのか。

【学校施設担当課長】 二中の北側の旧桜堤小学校の跡地を合わせると、約2万2,000平米になる。

【副委員長】 人口密度的にも圧迫感はないとはいえ、学校によって差がある。区割りでの仕方がないということか。

【委員長】 「データから見た武蔵野市」は、あくまで現在の二中の面積である。今あいているところを使うことによって、面積等もプラス5,000平米で、かなり大きくなる。

【委員長】 計画案 Ver. 3.0 は、二中、六中、二小という具体名を出している。計画案は、具体名を出すのが、統合ありきではなく、統合について皆さんで考える舞台をまず整える、統合することを一つのオプションとして来年度以降に検討するという記載とすることでよいか。皆さんの意見を伺いたい。

【B委員】 武蔵野市学校施設整備基本計画に改築年次案が出ている。ここに書かれた学校は、この調整計画の期間中に何らかの改築をすることが既に決まっているという理解でいいのか。

【学校施設担当課長】 そのとおりである。第1グループ8校については、学校施設整備基本計画において、目安だが、この時期に改築を進める形で計画を出している。

【B委員】 資料1-1の42ページで、書き出しを「今後計画している学校改築においては」とするなら、今後計画するもの全てを書かないといけない。名前を出すのは、調整計画期間の対象となるからである。既に学校施設整備基本計画に上がっていると書かないと、調整計画策定委員会で学校名が上がってきたような誤解を招く。逆に、学校施設整備基本計画になっていることをわかっている人たちは、調整計画に書かれていないと不安が大きくなる。

【委員長】 書き出しは、学校施設整備基本計画との関係性がわかる形にする必要がある。学校施設整備基本計画は、3～4年後に改定することが想定されていて、第六期長期計画・調整計画内だ。そのことも含めて書いたほうが、わかりやすい。

いずれにしても、具体的な検討できるように具体的な名前を出したほうがいいのか、いけないのか。この意思統一を策定委員会内でとっておきたい。

【A委員】 私は、間違いなく書くべきだと思っている。私たち長期計画・調整計画策定委員会が個別計画を決定する権限はない。一方で、大きな方針として、今回こういった方向性でこれから検討する、しかし、いろいろな配慮も必要だということで、「教育面をはじめ」と書かれている。ここはもう少し工夫して強調したほうがいい。

これはプールの建てかえ、更新の話とよく似ている。調整計画策定委員会には決定権がない。決めるのは、関係者、市民、今回で言うと中学校の対象エリアの人たちである。書かなければ、一番伝えたい人たちにメッセージが届かないし、コメントも戻ってこない。私たちの目的は、調整計画案を押し通すことではない。皆さんの意見を取りまとめるとうなるという論点を示し、それに対して各方面からコメントをいただいて修正をかけ、最後に調整計画にする。決め打ちではなくて、自分たちはこう思うということを出さない限り問うこともできないのだから、具体名は書くべきである。本来なら討議要綱に書くのがベストだったが、手続的に間に合わなくて、今ここの段階で入ってきたということだと思っている。

【D委員】 私も書くべきだと思う。二中、六中統合の可否と移転配置の可能性が記載さ

れるのであれば、長期計画・調整計画にも学校名を書いて、論点をわかりやすくしたほうがいい。

【委員長】 私も名前を出した方がいいと思っている。その最大の理由は、賛成するにしても反対するにしても、明確に議論できるからである。武蔵野市は、これまで市民参加を重視して、市民の中で議論することを重視してきた。何もない中では議論が上滑りになる。改築時の移転による在校生の負担等をどうしたら軽減できるのか、具体的に考えるためにも学校名を書き、皆様から多様な意見をいただいて、来年度以降、有識者や地域の方々でしっかりと議論する舞台を設定する。教育面でどんなメリット、デメリットがあるのか議論するためにも、書いたほうがいい。

では、書かないほうがいいというコメントはないので、具体名を書くこととする。ただし、統合ありきに見えないような文章とし、1～2行目の計画との関係について修正したうえで、次回、最終的な文言調整等を行うこととする。

【副委員長】 みんなが行きたくなる中学校、越境してでも行きたくなるような中学校にしてほしい。毎年400人ぐらいが私立中学に行くのではなく、こんないい中学校、小学校があるのだから、ちょっと土地の値段が高くても武蔵野市に住みたいと思えるように、また、こんないい学校があるとみんなに自慢したいと思えるように進めてほしい。

(2) 財政計画について

財政課長が、資料1-2「武蔵野市第六期長期計画・調整計画計画案 Ver.3.0（溶け込み版）」のうち、4の(3)「財政状況の概要」及び7「財政計画」並びに参考資料「長期財政シミュレーションについて」について説明した。

【副委員長】 手がたい、謙虚かつ堅実なシミュレーションで、このままでいいと思うが、市税は過去10年間で50億円も増えているのに、なぜ今後は微増なのかという素朴な疑問を持った。

【財政課長】 市民税課の所管部長と方向性を確認した。この10年間をトレースすると、今までは人口の増が非常に大きく影響した。ここに来て、人口の増は横ばい、ないし月によっては減少している。これまでどおりの人口増と固定資産税の増が引き続き見込めるとしても、ふるさと納税の影響額が、それを打ち消すと思われる。

【副委員長】 ふるさと納税の影響額はどのくらいあるのか。

【財政課長】 令和4年度の控除額は、決算値約11億4,000万円である。

【委員長】 高齢者が増えて、収入の少ない方々の増加も市税の収入減になる。

【委員長】 長期のシミュレーションは、二中、六中、二小についての移転は一切考慮せずに、単独建てかえを想定しているということか。

【財政課長】 二中、六中に関して、統合前提のシミュレーションはしていない。一中の不調を受けて年度がずれ込んだものに関しては反映した。

【委員長】 基金残高見込み額が117億円あれば、多少のバッファーになると思う。

【F委員】 80ページの9～10行目「公共サービスの効率化の結果としての外部委託費の増により10年間で35.6%、47億円の増となっており」とあるが、効率化したのに、出費が増えてしまったというのは、よい結果なのか。

82ページの5年間のグラフ（図表6、7）は、歳出と歳入の実績額がそろっていない。これをどのように理解したらいいのか。実績額の「その他」が163億円と、かなり大きな額である。「その他」の内訳は、どうなっているのか。

見込み額よりも歳入の実績額は300億円ぐらい多い。多かった分を5年間の市債の120億円に回せないのか。コロナで国庫金から予定外の歳入があった分をうまく活用できないか。

【財政課長】 物件費の増に関する「効率化」について。例えば、市の職員の業務を外部の専門的な事業者へ委託することによって物件費が増えて、その分、人件費は減り、事業自体は効率化されているということを表現した。

82ページの計画額と実績額のずれについて。計画額は予算ベースで立てるので、計画額の歳入と歳出は2,079億円で一致している。実績額は、歳出（出た額）、歳入（得た額）、それぞれ決算ベースで出すので、ずれが生じる。そのずれが3年間分積み上がった。

歳入の実績の「その他」の内訳には、繰越金という費目があり、シミュレーション上は7億円を定額で計上している。年度内の余ったお金を翌年度に繰り越すが、実績額は繰り越された分が最後に計上されてくるため、「その他」の金額が大きくなる。

また、歳出の計画額の「その他」は21億円だが、歳出の実績額は163億円である。内訳には積立金という費目があり、計画額は利子収入のみ少額の計上であるが、当該年度で

使わなかったものを最後に基金に積み立てることになるので、最初と最後で大きな差が出てしまう。そういう意味で「その他」については、歳出、歳入それぞれで、必ず計画額と実績額は一定の差が生じる。

【財務部長】 例えば令和2年度の市民1人につき10万円の特別定額給付金は、まず150億円の歳出を組み、それに対して10分の10で国から150億円の歳入があった。その150億円を含めての300億円で、この間、国庫補助等に入った金額は全て充てる先がある。強いて言えば、「その他」の163億円は余剰分になる。ただし、これは翌年の基金に積んだ。これで借金を返済するといっても、自治体の場合は繰上償還には制限があり、財政力の比較的高い自治体は、繰上償還を簡単に許してもらえないため、市債は毎年予定されたものを計画的に返している。

【財政課長】 コロナの費用として受け取って、余った場合、市で使えないかのご発言だが、国からいただいているコロナ関連は、使った分のみいただいて、使わなかった分は翌年度に国に返還する。

【副委員長】 82ページのグラフはスケールをそろえてほしい。

【B委員】 内容に特段のコメントはない。

用語について、例えば学校改築で使う「整備」、「改築」を、財政のところでは「公共施設の更新」としている。計画の中で同じことを言っているにもかかわらず、言葉の使い方が違うと読む人の誤解を招く。財政用語上、「更新」と言わざるを得ないなら、どこかで注釈を入れたほうがいい。

また、健康・福祉分野では「社会保障給付費」、財政の部分では「社会保障費」と書いている。これも、そろえるか、違うならその説明を書いたほうがいい。

【財政課長】 市民に誤解を招かないように、内容を確認のうえ改める。

財政で言う「更新」は、「整備」や「改築」を包括的にした、少し大きなことをいう。「社会保障給付費」は、より扶助費的な要素が強くなり、「社会保障費」は繰出金という特別会計の部分も含まれる。福祉担当とも確認する。

【委員長】 国は「社会保障関係費」という表現も使う。所管と確認し、必要であれば、A委員、B委員とも調整していただきたい。

【G委員】 89 ページの吉祥寺と三鷹の駅前事業について。予断にならないように数字は入れないとのことだが、どういうオーダーになるかという見当は内々で持っていたほうがいい。

水道の一元化は、まだ具体的に進んでいないので、経費も見当がつかないということか。取るに足らない規模ということか。一元化するとすると、市の職員の配置もかなり変わる。その影響は未知数なのか。

【財務部長】 吉祥寺と三鷹の事業については、バックグラウンドでは様々な検討を進めているが、時期と金額が今の時点では全く見えないので、今は盛り込めない状況であり、考えられる要素を注記した。

水道の一元化についても、事務的な折衝は続いているが、相手のあることで、財政負担についても全く見込めていない。

【H委員】 水道一元化は、従来、東京都が進めていた事業ではない。財政負担の問題等々、東京都が市の施設をどう評価するかという交渉を単独で続けている。将来的な負担等が未定という状況であるのは、いたし方ないと思っている。

【G委員】 吉祥寺、三鷹はあえて未反映としているのはいいとして、水道の一元化については、未反映ということすらも書かないということだとめておいていいのかというのがよくわからなかった。後になって慌てないことが大事である。

【A委員】 今まで厚生労働省が管轄していたものが国土交通省に移管された。一方で、水道の広域化を推進するという方針を出したものの、国で具体的にどういう方向性で行くのか、どういう支援策を展開するのか、見えない状況である。水道は、海外では公民連携、PPPを活用する大きな分野だが、日本で先行したところはどうもうまくいっていない。不確定要素があり過ぎるので、現状の市営水道のコストだけ反映した。吉祥寺、三鷹のように、手法が固まって、あとはランドデザインをどうするのが固まれば、おのずと数字に落とせるというものとは大きく異なるので、書きようがなかったというのが正直なところである。

【委員長】 現時点で、図表等のスケールの修正その他はあるが、文章自体についての大きな修正はあまりないと思う。あとは細かい精査と文言の確認をお願いしたい。

(3) その他

【委員長】 計画案のその他部分の確認は次回とする。

次回は、計画案公表前に策定委員会で議論できる最終回となる。大きな修正等が必要な場合は、早急に事務局にご意見等をお寄せいただき、次回委員会でおおむねの確認をとる。その後は、委員長、副委員長と事務局に一任願いたい。

企画調整課長が、8月17日に開催する第18回委員会の議事内容及び9月1日の計画案公表後から11月の市長への答申までのスケジュールの概略について説明し、委員長が、第17回武蔵野市第六期長期計画・調整計画策定委員会を閉じた。

以 上